

生産 — 花き —

【産出額は回復傾向、栽培面積は漸減傾向】

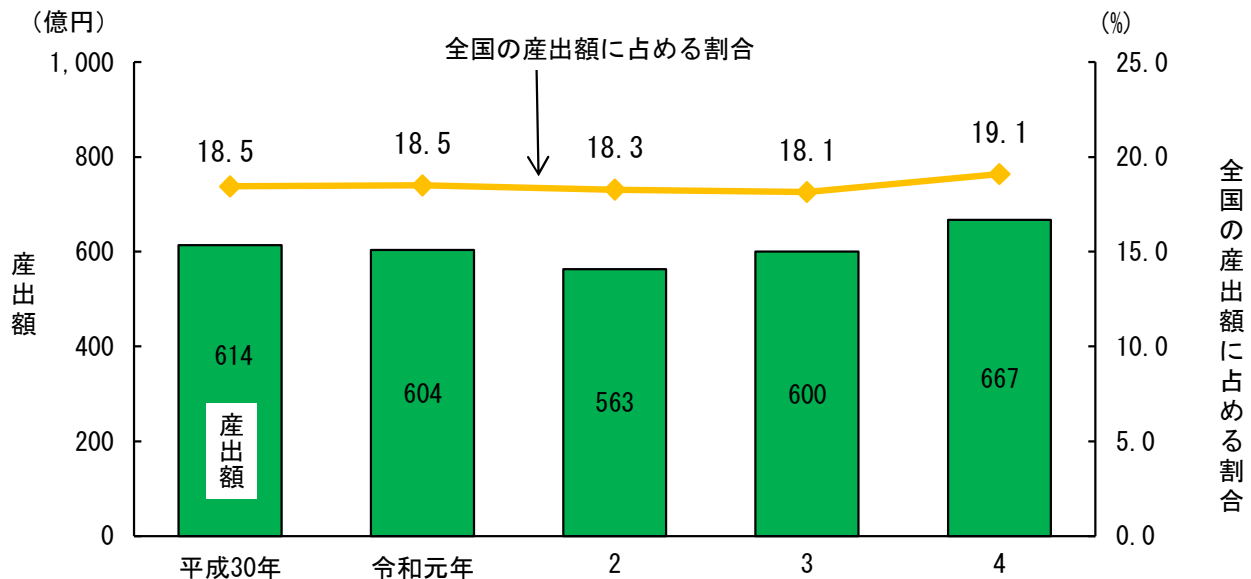
九州における令和4(2022)年の花きの産出額は、全国の19.1%を占める667億円で、前年に比べ産出額が回復しました。これは、新型コロナウイルス感染症対策の緩和によるイベント需要が高まったこと等が影響したものと考えられます。

一方、令和4(2022)年産切り花の作付面積は2,290haで、前年に比べ50ha(2.1%)減少しています。生産者の高齢化による作付面積の減少が続いていることを背景に、近年漸減傾向で推移しています。

出荷量は6億1,860万本で、前年に比べ3,390万本(5.2%)減少しているものの、そのシェアは全国の19.7%を占めています。

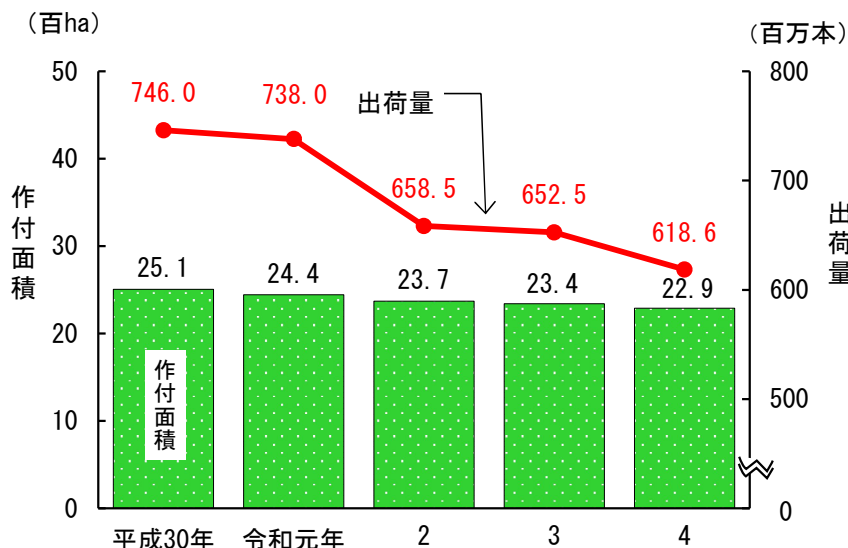
県別の出荷量をみると、洋ランやガーベラ等の生産が盛んな福岡県、きくやゆり等の生産が盛んな鹿児島県の両県で九州の44.4%を占めています。

九州における花きの産出額及び全国に占める割合の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

花き（切り花類）作付面積及び出荷量の推移（九州）



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

令和4(2022)年産花き（切り花類）出荷量の全国及び九州内割合

